

御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」

教区御遠忌テーマ「あなたは、与えられたいのちとどう向き合う？」

教化本部通信 【第54回】

真宗門徒の生活
を回復しよう

朝夕におつとめをしましょう・声にだしてお念仏を申しましょう
すすんでお寺の法座に身を運びましょう・報恩講を大切にお迎えしましょう

しんらんweb

検索

真宗同朋会運動50年に向けた運動の再検証。今回は、訓覇信雄宗務総長が提唱した真宗同朋会運動スローガン「家の宗教から個の自覚へ」から問われる教団のあゆみについて。

また「点描」は、前号に引き続き北海道「開教」百年。1987（昭和62）年同和推進本部主催により開催された「同和共学研修会」において提起されたアイヌ民族差別問題と、その発題者の1人小石川武美氏について。

真宗同朋会運動50年に向けて

その検証 歩み(四)

真宗同朋会運動の発足 (4)

教化本部 古卿 誠幸

「われわれの教団は従来、ご承知のように農村を基盤とした、所謂『家の宗教』の形をとってきたのでありますが、近代工業化の急速なる進展に伴いまして、農村社会は急速に工業社会へと移行し、戦前の家族制度の法律的廃止から『家』は、最早崩壊の危機に立っておるのであります。ここに必然的にわれわれの教団は、否でも応でも再出発を要求されておるのであります。本質的には当然、宗教は個人の自覚の上に立つべきものでありまして、既にこのことは明治の初めから先覚者の叫んできたところでありまして」（同朋会の形成促進1962（昭和37）年『真宗』7月号所収）。この訓覇信雄総長演説

「家の宗教から個の自覚へ」をスローガンとして真宗同朋会運動が発足した。

これは単に、「家」から「個人」への宗教という事ではなく、「西欧の伝統においては、個人の自覚は自我意識をこえることが遂にできなかつたからであります。この自我意識からの解放こそが、人間の根源的な願ひであります」（同掲）とあるように、「個の自覚」というどこまでも宗教の本質を指すものであり「その『個の自覚』の内容は南無阿弥陀仏である」（児玉晴洋『真宗』1990（平成2）年4月号所収）とする「自覚的真宗門徒の誕生」ということである。そもそも本来存在することのな

い「家の宗教」の成り立ちは、平安時代までの閉鎖的で、大衆への布教活動まで禁じられていた仏教が、鎌倉新仏教各宗派の興隆により南都仏教（旧仏教）の革新運動が進み、それまでの鎮護国家仏教から民衆救済の大衆仏教へと継起されていった。しかし、戦国時代から安土桃山時代には、混乱した社会の中で増大し過激となった仏教は大きな弾圧を受け、仏教独自の自立した活動が終わっていくのである。

江戸時代に入り、幕府による寺院に対する厳しい統制「寺院諸法度」や、また民衆に対してはキリシタン禁制のための「寺請制度」を強制し、これによってすべての国民はいずれかの寺に所属（檀家）することを義務づけられ、そのうち所屬させられた檀家は、寺院や僧侶の経費を負担し、寺は檀家の戸籍を管理する任をうけ、幕府の官僧となり、身分と生活が保障されていく。その結果、寺院諸

法度での他宗派の檀家への布教や新寺建立が禁止され、宗教活動が著しく制限されるなかで、近世時代の仏教は幕府の権力と権威に裏付けされた本末制度（本寺・中寺・末寺）、寺檀制度（世襲的寺院経済の維持）、「宗派宗学はつねに国家、あるいは時の権力者に屈服してきた」（西山邦彦『浄土真宗論』）というように教義までもが体制化された中で「家」仏教が、習俗的、慣習的に形骸化していき、仏教本来あるべき普遍的性格を喪失していくのである。この「家」仏教体制は明治維新という変動によっても解消されることなく、益々近代国民国家形成に邁進し、1945（昭和20）年の敗戦まで続いて行く。

真宗同朋会運動はこうした「家の宗教」を超える「純粋なる信仰運動」を目指して興った運動である。しかしそれは門徒の側における「家」だけではなく、その運動の基盤となっている「大谷家」を中心とした教団形成が血脈世襲制という「家の宗教」から成り立っているという現実があり、そのことと自身が問われていかなければならなかつたのである。

親鸞聖人によって「浄土真宗」と名のられた時代は、現在のような機構をもつ教団ではなかつた。宗祖自身も特別な地位も権力も身分もなく、ただ親鸞聖人という「人」とその歩みに同朋同行として集い、そこに心身を添えていたのではないだろうか。

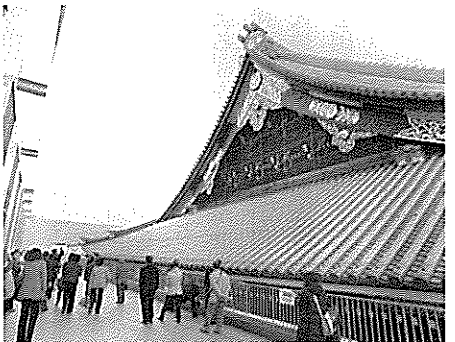
真宗同朋会運動とは、浄土真宗という一宗派を超えた「浄土真宗」を親鸞聖人の教えによって「個の自覚」として聞き開いていくものである。その「浄土真宗」は大伽藍にあるのではなく、一血脈に流れるものでもない。真宗教団という組織の中に存在するものでもないのであろう。それは親鸞聖人90年の生涯の歩みそのものであるのではないだろうか。

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌 お待ち受け総上山

「御影堂・阿弥陀堂屋根面見学」のご案内

御修復が完了した御影堂の屋根面や現在の阿弥陀堂の様子を、阿弥陀堂素屋根面から間近で感じていただけるコースが新たに設けられました。また、奉仕団で上山される際にも、日程中視察いただくことが出来ます。この機会に是非真宗本廟への上山をご計画頂きませうご案内申し上げます。

期間 2010年1月から6月
末まで
問合せ 教務所（担当今村）まで



阿弥陀堂素屋根から見た御影堂屋根面の様子